

【発行】

島根県立三刀屋高等学校
〒690-2404
雲南市三刀屋町三刀屋 912-2
TEL：0854-45-2721
FAX：0854-45-5630

第144号
令和6年
11月12日発行

蒼雲



「私には夢がある」 I Have a Dream.

校長 本間達也

猛暑、酷暑と表現された夏は過ぎましたが、今年最大の満月「スーパームーン」翌日（10月17日）にもまだ夏日を記録するなど、なかなか秋らしさを実感しにくい天候が続きました。それでも、次第に冬をも意識させられるような季節となってきました。保護者の皆様、地域の皆様には、日頃から本校の教育活動全般にわたりご理解とご協力をいただきありがとうございます。

4月に開校100周年記念式典を開催した今年度も半分が終わりました。5月以降、高校総体や総文祭といった部活動の大会、球技大会や学園祭、遠足や研修旅行など多くの学校行事が行われ、その都度生徒の皆さん一人一人の充実感や満足感にあふれた表情や姿を目にすることができました。今年度、重点目標の一つに「自己表現のできる環境づくり」を掲げ、部活動の活性化、生徒会や生徒発の活動の推進など生徒主体の活動の活性化、活躍の機会や場の創出と積極的発信をその具体策としてあげています。お届けする学校だより『蒼雲』で紹介する、生き生きとした活動の様子や成果から生徒の皆さん一人一人の「自己表現」の一端を感じとっていただければと思います。

さて、タイトルに示した「私には夢がある」I Have a Dream.とは、1963年8月28日にアメリカ合衆国の首都ワシントンDCでマーティン・ルーサー・キング・ジュニア博士が行った演説に繰り返し登場するフ

リーズです。キング博士の「夢」とは、あらゆる民族あらゆる出身のすべての人々に対する自由と民主主義の実現でした。彼は平等な公民権を保障する法律の制定を求めて奔走し、1964年にはこの功績が認められノーベル平和賞を受賞しています。

ひるがえって、私自身はこれまで「夢」について語ってきたであろうか？キング博士のような壮大な「夢」を語ることはできないが、自分の中に「夢」を抱いて生きてきたであろうか？そう自問自答しました。契機となったのは、ある研修でのアイスブレイクでした。研修講師の方から「今日の研修を始める前にお互いに自己紹介をしてもらいます。その際、『私には夢がある』と最初に言い、ご自身の「夢」を交えながらお話しください。」と言われました。その時は、文字どおり「夢のような話でお茶を濁した感じでしたが、研修後に改めて思い返してみました。思い起こせば、最初に「夢」について語ったのは保育所の育乳式の時だったと思います。少人数の小さい保育所でしたが、保護者の前で一人一人が「大きくなら」と題して画用紙に絵を描き、将来の「夢」について発表しました。私は、「大きくならたら土木作業員*になりたい！」と言ったことを鮮明に覚えています。父親が建設関係の仕事に携わっており、子どもなりに父親を尊敬していたのだと思います。成長するにつれ就きたい職業は変わり、中学・高校の頃には教職に就くことを目標として過ごしていました。しかし「教職に就くこと」自体を「夢」と捉えてはいなかったように思います。「こういう教師になりたい」とか「教師になってこうしたい」という思いはありましたから、むしろこちらの方が「夢」に近かったと言えるかもしれません。「夢」とは単に目指

す職業に就くことではなく「将来実現させたいと思っていること」であると言えるのではないのでしょうか。就きたい職業を選択した上で「こんな〇〇を目指したい」「〇〇になってこういう形で社会に貢献したい」とか、逆に「こういう形で社会に貢献したいから〇〇に就きたい」といった考え方です。さらに言えば「実現させたい」というのは、実は自身自身のことであり、「夢」とはつまり「自己実現を目指すこと」と置き換えることもできるでしょう。

進学型総合学科の三刀屋高校では、確かな学力の育成とキャリア教育の充実を両輪として教育活動を進めています。総合学科ならではの科目「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」では、自己理解や地域理解、あるいは職業探究や学問探究など生徒の皆さん一人一人の自己実現につながるようなプログラムを用意しています。生徒の皆さん一人一人が「なりたいたい自分になるために」「自分はこうありたい」という「夢」を語る人になれるよう私たち教職員も全力で支援していきたいと思っています。

さて「私には夢がある」、皆さんはこのフレーズの後にどんな言葉をついでいきますか？*当時は別の表現をしましたが、今回はこの表現にしています。

進学型総合学科の学び

自己実現

三刀屋 三刀流

●学びの土台となる教育環境を提供していくとともに、自己実現の基盤（心柱）となる確かな学力を育成するため、授業を充実させ、三高トライアングル学習を進めていきます。

●主体性を育み、高校生活やその後の人生がより豊かなものとなるようキャリア教育を推進していくとともに、全ての教育活動を通して社会力、人間力を育んでいきます。

●特別支援教育、生徒支援、人材教育の充実により、一人一人を大切にしています。

学びの心柱「確かな学力」

志

自己表現のできる環境
安心・安全な学びの環境

【学びの土台】
(教育環境)



二高祭を終えて

桑原 大河

我が三高の一大イベントでもある三高祭は3日間一度も笑い声が絶えることなく幕を閉じました。今年が開校100周年という記念すべき年であり、生徒だけでなく先生、保護者の皆様方など三刀屋高校に関わる全ての皆様楽しんでいただくことができたのではないのでしょうか。振り返ってみると大雨による延期で、体育祭が平日での開催となり予定していた計画どおりには進まないこともありましたが多くの方々のご尽力により三高祭は大成功しました！

我々生徒会としても最後のイベントとして深く関わらせていただくにあたって、早い段階からの準備を始めましたが、ハプニングの連続でなかなかうまくいかなかったことが多く、頭を抱えることもありましたが、本番で在校生のみんなの笑顔を見ると1年間頑張ってきたなと心から思えることができました。初日のみんなの威勢のいい返事を忘れません！

そして私たち3年生はこれで最後の体育祭となりました。今年の3年生は他学年と比べると人数が少なくいつもはクラスを超えてみんなでワイワイやっていますが、期間中はみんなが目を輝かせて、作業に没頭していました。みんなで作った衣装、応援合戦のダンス、頑張った競技、三高祭を通してまた一段とクラスとして学年としての絆が深まった楽しい三高祭にしてくれた3年生、ほんとにありがとうございました！

体育祭を成功させるにあたってフレッシュな1年生、アツアツな2年生、メラメラな3年生、生徒よりも熱い先生方そして、皆さんの協力があったからこそ三高祭でした。関わっていただいた全ての皆さん、本当にありがとうございました！



紫組

色長 岡田 陸来

今年の紫組のテーマは「紫電清霜」でした。このテーマのように一人一人が輝けた最高の三高祭になったと思います。三高祭の思い出は2つあります。

1つめは色長4人で顔を白塗りした「女々しくて」です。あれはみなさん衝撃を受けたのでは？あの白塗りを落とすのはちょー大変でした。でも、みんなと一緒に歌ってくれたあの一体感は忘れられなくてやってよかったと心から思いました。欲を言えば2番も歌いたかったな～。これからは「女々しくて」が流れてきたら僕たちのことを思い出してくださいね。2つめは準備期間で、初めは何からすれば良いかわからないことばかりで大変だったけどみんながたくさん意見をだしてクラス動画の最恐ホラー動画や、和をイメージした衣装、仮面をモチーフのデコなど紫らしい最高の作品を作り上げることができました。これも各パート長、紫組のみんなの支えがあったからこそここまで作り上げることが出来ます。1年生のうっとりする歌声、2年生の工夫がありすぎたクラス展示めっちゃ楽しかったです。大変な事、楽しかった事色々ありましたが、チーム一丸となってやりきった最高の三高祭になりました。こうして楽しくできたのも生徒会や先生方が企画・準備・運営を最後までやりきってくれたからです。みんなに感謝！紫組さいごー！

赤組

色長 椿 周真

今年の赤組のテーマは「勝破笑美戦^{かつぱえびせん}」でした。テーマどおり勝負に勝ったり負けたり、その中でたくさんの笑顔があったり、時には美しい感動場面もあったりするととても面白い三高祭になりました。

3年2組にはそれぞれ違った、ずいぶん豊かな個性の持ち主たちがいるため決め事には多くの時間を使いました。ダンス、衣装は本番前までに間に合うのかとても心配でしたが、少ない時間の中で全員で協力したためなんとか間に合わせることができました。1、2年生に教えるのは簡単だと思っていましたが、実際にやっていく中で正しい言葉や動きが伝えられず、なかなか思ったようにいきませんでした。体育祭を通して思ったことを人に正しく伝えることがこんなにも難しいことなんだと分かりました。

私自身1年目コロナウイルス、2年目インフルエンザで出ることができませんでしたが3年目は奇跡的に何も感染することなく、高校人生初めて最後の体育祭を色長として終えることができたことに感謝したいです。

三高生全員で作り上げたからこそ最高の三高祭になったと思えました。

歴代の三高祭の中でも今年2024年の三高祭が1番に違いない!!

黄組

色長 津和野 陽 希

今年は黄組のテーマ「虎視眈々」の下、全学年が一致団結して三高祭を盛り上げ、昨年を超えるとても最高な三高祭を開催することができました。

1、2年生はクラス展示や合唱など初めての事だらけで大変なこともあったかもしれないけど、2週間という短い準備期間で良いものを作ろうと頑張ってくれました。また3年生は最後の三高祭ということもあり、デコ、衣装、パフォーマンスの3つの班に分かれ何度も話し合いを重ね、よりよいものにしようとして一生懸命頑張ることができました。しかし、パフォーマンスは体育祭のダンスのフォーメーションが決まらないまま本番前日を迎えていました。1、2年生の中にはとても不安を感じる人もいたかもしれないけど、最後まで一生懸命話を聞いてくれて、なんとかフォーメーションを決めることができ、本番ではとても良いパフォーマンスを見せることができました。最後まで諦めずがんばることができてよかったです。

また僕は色長としてたくさんの経験をさせてもらいました。これまでの学校生活の中で初めて人をまとめるという立場にたち、多くの人に指示を出し、動かすという大変さを痛感しました。このような経験をこれからの生活に活かしていきたいです。新型コロナウイルスによる制約もなく、たくさんの人のおかげで無事に三高祭を開催することができました。本当にありがとうございました！

青組

色長 妹尾 鼓太郎

今年の三高祭は自分が体験した3回のなかで1番のものに感じた。1日目の1年生の合唱や各部活のステージ発表や展示、そして自分も吹奏楽部の演奏に参加し歌を歌ったのは本当に楽しかった。2日目は2年生によるクラス展示や体育館ステージ発表もあり、本当に盛り上がったのを覚えている。

そして、三高祭の中で1番盛り上がったのは3日目の体育祭だ。各競技にそれぞれの面白さがあり、自分は見ているときもそれに参加するときも白熱しすべて全力で取り組んだ。応援合戦では3年生は自分たちの作った衣装を着てダンスを踊った。青組はダンス部を中心にダンスを考え、1、2年生を束ね、衣装は衣装班のみんながたくさんのことを考え一つ一つ手書きで文字を書き素晴らしいものを作ってくれ、とても感謝しています。デコでは、多くの色を使いたくさんの人の注目を集めました。

青組は本当にいい成績でスローガンの「蒼い衝撃」のとおり多くの衝撃を残すことができました。準備期間中も本当に楽しくて、一生の思い出になりました。青組のみんな本当にありがとう。



男子ソフトボール部

石飛 陽帆

私たち男子ソフトボール部は県総体で安来高校に4-3で勝利し、7月27日から長崎県大村市で開催されたインターハイに出場しました。

新チーム結成当初は連敗でスタートしました。しかし県外遠征や練習試合、選手同士でのミーティングを重ねることでチームとして力をつけることができ、県総体で優勝することができました。

インターハイでは1回戦で東京都代表の京華高等学校と対戦しました。チームの中で普段の練習でやっていることを発揮すること、先制点をとること、ミスを少なくすることを意識して試合に臨みました。初回に先制点をとった。その後も追加点を重ねて試合を優位に進めることができました。守備の面でもピッチャーを中心に守り抜き、9-0で勝利することができました。2回戦では石川県代表の星稜高等学校と対戦し、0-7で負けました。結果としては目標としていた全国ベスト8には届きませんでした。しかしインターハイという舞台と部活動の仲間や競技を通してできた経験はかけがえないものとなりました。

今までたくさんのサポートをしてくださった保護者や指導者の方々、地域の方々や応援してくださった方々のおかげで最後までソフトボールを全力で楽しむことができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。後輩たちには全国の舞台のさらに上のレベルで活躍してくれることを期待しています。これからも男子ソフトボール部の応援をよろしくお祈りします！



女子ソフトボール部

内藤 紗和

2024年の長崎県で行われたインターハイにおいて、三刀屋高校女子ソフトボール部はベスト16を目標に挑みましたが、2回戦敗退という結果になりました。初戦の熊本県代表・玉名女子高校との対戦では、チーム全体が一致団結し、互いに信頼し合いながら、自分たちらしいプレーを展開しました。この試合では、選手一人一人が自分の役割を全うし、攻守において連携の取れたパフォーマンスを見せ、見事勝利を収めることができました。これまでの練習の成果が実を結び、チーム全員が喜びと誇りを感じた瞬間でした。

続く2回戦では、岩手県代表の花巻南高校と対戦しました。この試合でも私たちは最後まで粘り強くプレーし続けましたが、相手の強力な攻撃に苦しむこととなり、最終的には点差をつけられて敗れてしまいました。この結果には悔しさがありますがこの敗退は、新チームにとつての新たな目標を探し、成長する機会となりました。

支えてくださった保護者や地域の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。私たちのために時間を割いて応援してください。方々の思いに応えるため今後もさらなる高みを目指し、チーム一丸となって努力を続けていきます。



演劇部

陶山 桔平

私は岐阜県羽島市で7月31日から8月2日に行われた全国高等学校総合文化祭演劇部門に生徒講師委員として出場しました。生徒講師とは、観劇した作品について何を感じ、どうしてその感情が生まれたのかなどを考え12人の委員で集団行動を行いながら劇への理解を深めるための活動です。全国大会出場が決まってからは、演劇を見て繰り返し講評文を書き、実際に部員と劇についての討論を行い、改善点やアドバイスをしてもらいました。こうして周囲に協力してもらいながら準備を進めた結果、全国大会では優秀生徒講師委員賞を受賞することができました。

今大会は、初めての生徒講師委員としての参加でわからないことが多く、不安も大きかったですが、他の11人の講師委員やアドバイザーの先生方と協力しながら討論や講評文の作成を行う中で、仲間の大切さや演劇の良さを再確認することができました。討論の中では同じ作品を見ているにも関わらず、講師委員によって全く違った受け取り方を見ていることも多くあり、その話を聞くことで今までの自分にはなかった新しい物事の見方を得る事ができ、自身の考えをより深めることができました。

高校最後の大会で、演劇を通して自分を成長させられる貴重な経験ができたことは、私の一生の宝物です。支えてくださった方々本当にありがとうございます。今後とも三刀屋高校演劇部の応援をよろしく願います。



JRC部

岡崎 響

私たちJRC部は、8月6日・7日に東京都新宿で行われた全国高校生ボランティアアワードに参加しました。

「三刀屋の梅から世界へ！」私たちは三刀屋の梅とフェアトレードの輪を広げるため、三刀屋の梅とフェアトレード商品をコラボさせたカップケーキを開発し、試食会も開きました。試食会当日は沢山の地域の方にご来場いただき、私たちの活動に興味をもっていただけただけのととても嬉しかったです。

大会当日は他校の高校生や一般来場者、審査員の前で活動の成果を発表するという事で、初めはとても緊張していましたが、発表を聞きにきてくださった方々が皆さん領きながら聞いてくださり、「着眼点や行動力が凄い！」「これからは頑張ってくださいね」といった温かい言葉も沢山通して、来場して下さった皆さんに私たちの地域活性化への想いや、フェアトレードの普及によって現地の子どもたちを支援したいという気持ちを、伝えることができたのではないかと思います。

他校の取り組みを聞いてみると、企業と連携して商品開発をするなど、私たちよりもっと大きなスケールで活動している学校が沢山あり、驚きました。自分たちの学びになることが多くあり、今後の活動の参考になりました。沢山の刺激ももらったので、今の自分たちの活動では満足せずにもっと様々なことに挑戦して、レベルアップしていきたいです。

応援してください。地域の方皆さん、本当にありがとうございます。これからも「気づき・考え・実行する」を合言葉に活動の輪を広げていきます！今後とも協力よろしくお願いします！



文芸部

野中 風花

私は、8月2日から4日にかけて岐阜県飛騨市で開催された全国高等学校総合文化祭文芸部門に、島根県の散文部門代表として参加させていただきました。

参加者全員の散文を読み感想をまとめるといふ事前課題があり、出発前に散文部門の参加者全員の作品を読みました。素晴らしい作品ばかりで、非常に面白く読ませていただきました。

1日目は開会式と文学研修を行いました。文学研修では、飛騨の里と古川町の散策を行いました。飛騨市の歴史や伝統文化に触れ、学びを深めることができました。2日目は全体交流会・部門別交流会でした。全体交流会では、岐阜県に関するクロスワードパズルを行いました。部門別交流会では、作家の中村航先生、映画監督・脚本家の作道雄先生を講師としてお招きし、作品をご講評いただきました。タイトルを付けるときには一見関係のない名詞2つの組み合わせにするという良いとお話や、最後の一文では重要なことは言わずに行動、情景の描写にとどめた方が良いというお話をいただきました。たいへん勉強になりました。

3日目は講演会と閉会式がありました。講演会では、「小説を読むこと、書くこと」というテーマで中村航先生、作道雄先生にお話しいただきました。

本当に楽しく、また学んでばかりの3日間となりました。今回の総文祭で得た学びを今後の創作活動、また文芸部の活動に活かしていきたいと思えます。

